

## 【卒業生寄稿】

中西良子（旧姓：山西）  
外務省大臣官房儀典官室  
（2001年度卒業）

ポルトガル語学科の新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。そして、在校生の皆様も、新たな1年の始まりに期待が膨らんでいることと思います。

私は現在、ポルトガル語の専門職員として外務省で働いています。本学科に入学するまでは、ポルトガル語にもポルトガル語圏の諸国にも特に関心がなかったのですが、何かの縁で本学科に入学したのだからポルトガル語をきちんと勉強しようと思い、ブラジルに交換留学するという目標を掲げました。

大学3年生の時にポルトアレグレにあるカトリック大学に交換留学し、ブラジルでの生活、ブラジル人との交流に刺激を受けて、将来海外で働きたい、大学で学んだことを活かせる仕事に就きたいと思うようになりました。そして、留学後に、ポルトガル語をさらに上達させるために再び留学したいと思っていたところ、2年間の語学研修を受けられて日本と海外勤務を交互に繰り返す外務省専門職員という職業があると知り、公務員試験に挑戦しました。

外務省専門職員は、高い語学力を活かし、関連する国・地域の社会、文化、歴史等に通じた地域の専門家、あるいは条約、経済、経済協力、軍縮、広報文化などの様々な分野の専門家として活躍することが期待される職種です。海外においては、日本の外交官として相手国政府との交渉や政治・経済その他の情報の収集・分析などに携わり、本省においては、その専門的知見を活かして外交政策の企画・立案に携わります。

私は、入省後、ポルトガルでの語学研修を経て、モザンビークとアンゴラの日本大使館にそれぞれ2年間勤務し、帰国後は南米課でブラジルと関わる仕事をする機会がありました。特に、アフリカは生活環境が厳しい状況にあり、大使館の仕事は決して華やかなものではなく、地味で根気のいる仕事が多かったですが、日本のために働きたいという強い使命感と情熱を持った志の高い上司・同僚に恵まれ、また、現地の社会・文化・歴史・自然に触れ、様々な人との出会いを通して日々刺激を受けながら、「日本のために働く」という充実感とやりがいは、何物にも代えがたいものでした。今の自分があるのは本学科と先生方との出会いのお陰だと心から感謝しています。

本学科と何かの縁があった新入生の皆様、5年後、10年後どんな自分になっていたか考えてみてください、そして、目標に向かってどんどん挑戦し、色々な経験を積み、人との出会いを大切にしながら、将来につながる学生生活を思いっきり楽しんでいただきたいと思います。